

呼吸器外科

1. 特色（一般目標）

呼吸器疾患一般の基本的な知識、診断、検査、更に外科治療の対象となる呼吸器疾患（縦隔、胸壁疾患を含む）の治療法、および手術と術前・術後の合併治療についてその理論と実技を習得する。将来いかなる専門分野に進む医師にとっても必要な呼吸器疾患に対する基本的能力を習得することを目標とする。

2. 研修受け入れ可能期間

2年次 1～6か月（4～24週）

3. 研修の人数

原則1期間1名

4. 研修到達目

（行動目標）

- (1) 患者と良好な人間関係を確立することができる。
- (2) 問題解決に必要な情報を適切に収集し解析することができる。
 - 1) 望ましい面接技法や系統的問診法を用いて、患者から必要な身体的、心理的及び社会的な情報を聞き出すことができる。
 - 2) 系統的診察および胸部診察により必要な身体的所見を得ることができる。
 - 3) 収集した情報および胸部画像情報の相互関係を考慮して解析することができる。
- (3) 問題解決のための診断治療計画を立案し、基本的検査、手技を実施さらに侵襲性の高いものに関しては適応の決定と結果の解釈ができる。
- (4) 患者情報を適切に要約し、回診、術前術後検討会などにおいて提示することができる。
- (5) 術前術後呼吸管理の問題点を理解し、術前術後患者の肺理学療法を実施、評価することができる。
- (6) 呼吸器外科疾患を鑑別し、必要に応じて専門医へのコンサルトを受けることができる。
- (7) 呼吸器外科領域の救急疾患を理解し、適切な応急処置と専門医への紹介ができる。

（経験目標）

- (1) 経験した方がよい主要疾患
原発性肺癌
癌性胸膜炎・心膜炎

肺尖部肺癌
転移性肺腫瘍
肺良性腫瘍
気管・気管支異物
胸部外傷
中枢気道狭窄
喀血
縦隔腫瘍
悪性縦隔胚細胞腫
重症筋無力症
気胸
巨大肺嚢胞症
慢性膿胸
有癭性膿胸

(2) 研修すべき主な診断・検査法

動脈血ガス分析
肺機能検査
心電図
気管支ファイバー検査および生検
肺動脈造影
気管支動脈造影
胸腔穿刺
胸腔鏡下生検

(3) 研修すべき治療法

術前呼吸訓練法
術後肺理学療法
人工呼吸管理
気管支ファイバーによる気道内吸引洗浄
胸腔ドレナージ
気管切開術
開胸・胸腔鏡下手術（術者）
 良性縦隔腫瘍
 自然気胸
 良性肺腫瘍
 転移性肺腫瘍
 良性胸壁腫瘍摘出術

拡大胸腺摘出術

(研修計画)

週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	病棟業務 手術	手術	病棟業務	病棟業務	手術	
午後	新入院患者 術前治療 計画作成 術前カンファレンス	手術 気管支鏡 病棟業務	病棟 カンファレンス	病棟業務	手術 気管支鏡 病棟業務	

(指導体制)

指導体制の概要

指導医の下で、病棟業務研修、手術研修(助手・術者)、術後管理研修などを行う。

経験症例中 1-2 例についてより深い知識を習得するために学会報告・論文作成を行う。